



四国の風景街道通信

四国風景街道協議会

【平成29年度 四国風景街道交流会】を開催しました

●とき 2017.12.2(土) ●ところ 徳島県三好市内(三好市秘境ロマン街道)

概要

今回の交流会は、四国内で活動されているパートナーシップの方々及び行政関係者、一般参加者あわせて総勢49名にご参加いただき、以下の2部構成にて開催しました。

- ・第1部 現地見学 祖谷のかずら橋→落合集落→道の駅大歩危(大歩危峡)
- ・第2部 基調講演① 一般社団法人四国クリエイト協会 専務理事 藤山 究氏
演題『四国「道の駅」連絡会の活動』
- 基調講演② 一般社団法人日本自動車連盟(JAF)四国本部
会員部長兼事業部長 西村 康弘氏
演題『地域の宝で終わるのは「もったいない」、
美しい風景が呼び込む全国の視線』
- 事例紹介 三好市秘境ロマン街道 YチームLOVE西祖谷
藤堂 竜也氏、谷口 浩憲氏、横岡 真一氏
演題『チームではぐくむ郷土愛』



三好市 黒川市長 挨拶

現地見学

現地見学では、今回の交流会の舞台となる「三好市秘境ロマン街道」の祖谷のかずら橋、琵琶の滝、落合集落、道の駅大歩危を巡り、三好市産業観光部の大西次長、大塚氏、三好市教育委員会文化財課の殿谷氏から説明を受けました。移動中のバスの車内でも地域の活動についてご紹介いただきました。

◆祖谷のかずら橋

祖谷のかずら橋は、国指定重要有形民俗文化財に指定されており、その由来や、伝統技術の継承のため3年に1度架け替えを行っていることなどの説明を受けました。また、参加者でかずら橋の渡橋を体験しました。

◆琵琶の滝

琵琶の滝では、屋島で源平の戦いに敗れた平国盛(教経)の一行が幼い安徳天皇をお守りしながら祖谷の地にやってきたという祖谷平家伝説や、平家衣装体験、河原に下りたいという観光客の要望を受けた祖谷川の親水護岸整備について説明を受けました。

◆落合集落展望所

落合集落は高低差400メートルの斜面に沿って広がる集落で、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。集落を一望できる落合集落展望所は、景観に配慮して木製で整備したという取り組みや祖谷地域の文化、観光資源の活用についての説明を受けました。

◆道の駅大歩危

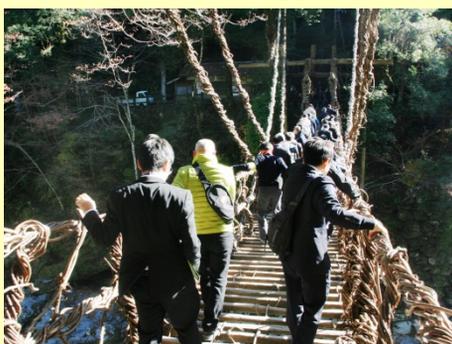
道の駅大歩危では、大歩危・小歩危の名称の由来や妖怪伝説、溪谷の成立ちなどについて説明を受けました。また、地域資源を活かしたラフティングや、ジオパーク認定を目指す活動についてもご紹介いただきました。



三好市産業観光部観光課 大西氏による説明の様子



三好市教育委員会文化財課 殿谷氏による説明の様子



祖谷のかずら橋での見学状況



琵琶の滝での見学状況



落合集落展望所での見学状況

基調講演①



『四国「道の駅」連絡会の活動』と題して、一般社団法人四国クリエイティブ協会の藤山専務理事に基調講演をいただきました。

道の駅には休憩、情報発信、地域連携といった機能があり、それぞれの道の駅において、地場製品の販売、観光の拠点、防災拠点にするなど異なった活動や取り組みがなされているが、更に大きく発展できる魅力、底力、可能性があるとの説明がありました。その一例として、四国内の道の駅では、香川大学との協働による景観の改善や施設の活用促進、新しい食品の企画・提案などの取り組み事例についてご紹介いただきました。

四国「道の駅」連絡会の取り組みについては、四国内85駅の道の駅が連携する会議・イベントの開催、クーポン付きの「スタンプブック」の販売、JAFとの連携によるイベント「道の駅×JAF感謝祭」の開催、地域観光+道の駅の周遊ルートに掲載した「四国道の

駅ドライブマップ」の作成・配布など、道の駅の活性化に向けた様々な取り組みについてご紹介いただきました。

また、四国創生に向けて四国地方銀行4行が提携した「四国アライアンス」と連携し、情報交換を行いながら、4行の豊かな知識・ノウハウを活かした、道の駅活性化に取り組んでいきたいとの説明をいただきました。

講演後には会場から、今後新たに検討している取り組みや四国内の道の駅への情報発信方法についての質問があり、活発な意見交換が行われました。

基調講演②

『地域の宝で終わるのは「もったいない」、美しい風景が呼び込む全国の視線』と題して、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)四国本部の西村会員部長兼事業部長に基調講演をいただきました。

まず、現状の旅行に関するデータを基に、宿泊旅行に比べて日帰り旅行の旅行者数・消費金額が増加傾向であること、四国外から四国入りする旅行者の約7割が自動車を利用しているとの説明をいただきました。また、その地域が「目的地」となるよう「地域の持つ魅力」を発信し、他地域の人に知ってもらふ必要があるとの説明をいただきました。

次に、JAFの紹介として、社会貢献を目的とした一般社団法人であり、全国約1,900万名、四国約57万名の会員数を有しているとの説明をいただきました。また、主な活動としてロードサービスや交通安全活動などを行っており、その他にも地域振興への取組みとして全国446自治体(四国27自治体)と観光に関する協定を交わし、月1回発行している会報誌「JAF Mate」にて全国の会員に地域の情報を発信している取組みなどの説明をいただきました。

更に、地域の魅力的な情報を伝えたいターゲットにしっかりと広報できているか、四国外の地域に広報する手段があるか、地域への誘客にかかる費用が負担になっていないかなどの課題に対して、JAFと連携することにより、約1,900万名の会員にダイレクトに届く「JAF Mate」を活用して伝えたい情報を伝えたい地域に費用をかけずに発信することができるとの提案をいただきました。

また、講演後に会場より、資金面での支援の可能性についての質問があり、活発な意見交換が行われました。



事例紹介

『チームではぐくむ郷土愛』と題して、開催地の日本風景街道登録ルート「三好市秘境ロマン街道」のYチームLOVE西祖谷の藤堂氏より活動事例の紹介をいただきました。

YチームLOVE西祖谷は、過疎化が進んで元気がなくなりつつある地域に対して、やりたことは何か、地域のために何ができるか、自分たちでできることをやっという思いから結成された地域の若者の集まりであるとご紹介をいただきました。

結成後の最初の活動として、地域活性化のために夏祭りを復活させたいとの意見が多くあったことから、夏祭り開催への取り組みを始め、必要な費用を調達するためにオリジナルタオルなどの物品販売や寄付金の要請を行ったことや、地域の協力を得るため、道路のゴミ拾いやカーブミラーの清掃などの地域貢献活動に取り組んだと説明をいただきました。道路の清掃活動では、軽トラックの荷台がゴミ袋で溢れることが何度もあり、地道ではあるが、地域から感謝され有意義な活動だったとの説明がありました。夏祭りでは花火、出店、アメゴつかみ取りなどで盛り上がり、準備などの大変さも忘れ楽しい気分になったとの説明をいただきました。

これからの活動について、過疎化や少子高齢化といわれる中、この地域には地域を活性化していこうという気持ちが残っており、YチームLOVE西祖谷は、これからも自分たちが集まり楽しんで交流しながら、様々な取り組みをして地域活性化に繋がりたいとの説明をいただきました。

最後に道路側溝付近に堆積した土や雑草の清掃について意見があり、会場と活発な意見交換が行われました。



おわりに

本交流会は、三好市の魅力が十分に味わえる現地見学、道の駅を拠点とした観光に関する取組みや地域の魅力の情報発信のあり方についての基調講演、地域を元気にしようとする西祖谷地域の活動事例紹介、活発な意見交換など充実した内容の交流会となりました。事務局としましても、四国風景街道が更に飛躍するよう努めてまいりますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願い致します。

このたびは、長時間となりましたが、多数の方々にご参加いただき、お礼申し上げます。また、交流会開催にあたりご協力いただきました地域の皆様、講師の皆様にはたいへんお世話になりました、ありがとうございました。



お問い合わせ

● 四国風景街道協議会事務局

国土交通省 四国地方整備局 道路部 地域道路課内

● TEL087-811-8323 ● FAX087-811-8421

● mail skr-shikoku-fukeikaido@mlit.go.jp